

サステナビリティレポート 2025



JFE プラリソース 株式会社

企 業 理 念

「 J F E プラリソース株式会社は、
環境と調和した社会の構築に貢献します。」

行 動 規 範

「 挑戦。柔軟。誠実。」

目次

ご挨拶	1
会社概要	2
品質環境マネジメント	
品質環境マネジメントシステム	3
環境への取り組み	6
ソーシャルコミュニケーション	
お客様・お取引様とともに	9
地域社会のみな様とともに	10
従業員とともに ～安全安心な職場づくり～	12
従業員とともに ～ウェルネスライフの実現に向けて～	17
コーポレートガバナンス	21
事業紹介	26
J F E プラリソースのC S R重要課題	33
JIS Q 9091:2016 自己適合宣言	39

C S R ・ 環境報告書 2025 電子版は、以下のサイトでご覧いただけます。

- ・ J F E プラリソース株式会社 <http://www.jfe-plr.co.jp/>
- ・ C S R 図書館. net <https://csr-toshokan.net/>
- ・ 福山市次世代エネルギーパーク 施設紹介 <http://fukuyama-energypark.com/guide/>

ごあいさつ

J F E プラリソース株式会社は、2009 年 7 月 J F E 環境株式会社の『容器包装プラスチックリサイクル事業』を会社分割して承継しました。以来、高炉やコークス炉へのプラスチック利用及び材料リサイクルを含めたプラスチックリサイクル事業を通して、資源循環型社会づくりに努めております。

製鉄用原料としてのケミカルリサイクルにより『化石燃料削減』や、材料リサイクル製品である N F ボード®は、リサイクル品の機能や寿命を考慮した環境負荷の低い製品としてコンクリート型枠パネルのほか畜舎内装用資材として『廃プラスチックリサイクル推進と C O 2 削減』等の実現に寄与しています。

環境に優しい企業として、市民の皆様へのリサイクルの『見える化』にも注力し、各種リサイクルを推進しております。また、環境保全は本事業の根幹であり、事業活動に伴う環境負荷をできるだけ少なくするために、全員参加型の環境マネジメント活動を継続展開し、トップレベルの環境配慮型企业を目指します。

現場力を通して働きがいのある会社として、社員一同一致団結して『創意・挑戦・創造』する会社づくりに向け頑張っていきたいと考えております。

弊社に対し、より一層のご支援とご愛顧を賜りますようよろしくお願いいたします。



代表取締役社長

浜田 亮介

会社概要

会社名 J F E プラリソース株式会社
代表者 代表取締役社長 堀江 亮介 (2025 年 4 月現在)
役員 取締役 井ノ口 孝憲 中込 理欧 高野 圭 大平 安義
監査役 山内 宏和

設立年月日 2005 年 11 月
2009 年 3 月登記 (定款・社名変更)
資本金 90 百万円
売上高 51 億円 (2024 年度)
従業員数 95 名
所在地 本社・京浜事業部 〒210-0866 神奈川県川崎市川崎区水江町 5 番地 1
TEL 044-299-5193 FAX 044-299-5328
福山事業部 〒721-0956 広島県福山市箕沖町 113 番地
TEL 084-981-3160 FAX 084-981-3170
U R L <http://www.jfe-plr.co.jp/>

事業内容 一般廃棄物、産業廃棄物の再資源化およびリサイクル事業
上記事業に関する技術・装置および再生プラスチック商品の販売
沿革 2000 年 4 月 水江原料化工場稼働 (処理能力 242 t / 日)
福山原料化工場稼働 (処理能力 254 t / 日)
2002 年 9 月 N F ボード製造工場稼働
2009 年 7 月 J F E 環境株式会社から容器包装プラスチックの
リサイクル事業を承継
J F E スチール株式会社が全株式取得



京浜事業部
水江原料化工場



京浜事業部
N F ボード製造工場



福山事業部
福山原料化工場

品質環境マネジメント

当社は、企業活動として行う容器包装プラスチックリサイクル事業＝（イコール）環境活動であるとの認識のもと、環境負荷低減の社会的責務を果たすとともに、ステークホルダーの満足度を重視した品質向上への取り組みを全社一丸となり継続しています。

品質環境マネジメントシステム

品質環境方針を定め、品質（ISO 9001）および環境（ISO 14001）マネジメントを推進しています。

品質環境方針

<基本理念>

JFEプラリソース株式会社は、プラスチック・リサイクル事業を通して、環境負荷の低減を実現し循環型社会の形成に貢献します。

顧客要求事項及び適用される法令・規制要求事項を明確にし、理解し、一貫してそれを満たし、製品及びサービスの適合並びに顧客満足度を向上させる能力に影響を与え得るリスク及び機会を決定し、顧客満足向上の重視を維持した事業活動を行ないます。

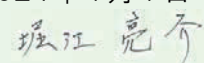
品質マネジメントシステムならびに環境マネジメントシステムにのっとり、すべての従業員は、一丸となって品質環境マネジメントに取り組みます。

<基本方針>

- （１）顧客満足度の向上、環境負荷の低減を両軸とした事業活動を行い、事業の発展とともに社会コストの低減をリサイクルにより果たすという目的のため、品質環境マネジメントシステムにのっとり、品質環境マニュアルを定め、遵守し事業を行います。
- （２）品質環境マネジメントシステムは、当社のすべての組織、すべての活動、製品及びサービスに適用します。
- （３）コンビナート、エコタウン、次世代エネルギー・パークの構成メンバーとして環境汚染を予防し、事業活動が与える環境負荷の低減、事業により成される環境負荷の低減を維持・向上・継続します。
- （４）関連する法令、その他の要求事項を遵守します。
- （５）品質マネジメントシステムの継続的改善、環境パフォーマンスを向上させるための環境マネジメントシステムの継続的改善を推進します。

2024年4月1日

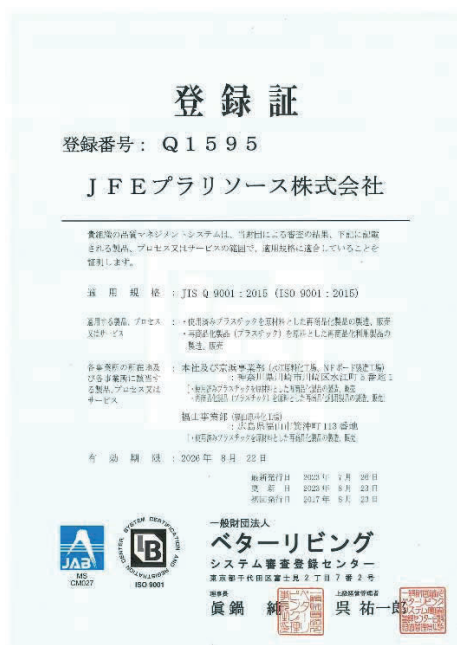
代表取締役社長



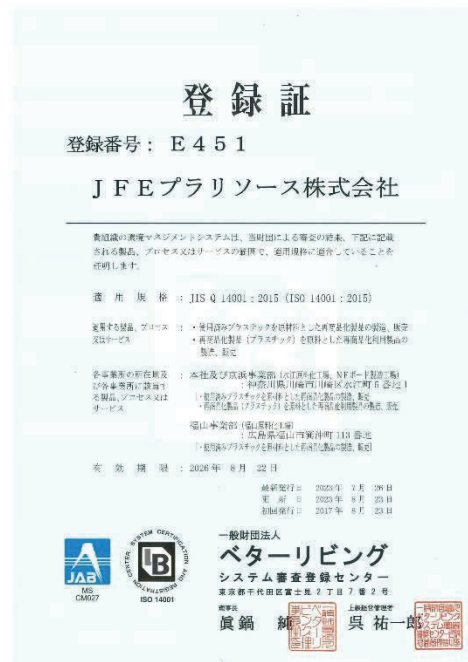
認証取得

当社は、継続的に環境負荷低減と顧客や規制の要求を満たすため、品質マネジメントシステム（QMS）ISO 9001:2015と環境マネジメントシステム（EMS）ISO 14001:2015の第三者認証を2017年に取得し、8年が経過しています。

ISO 9001



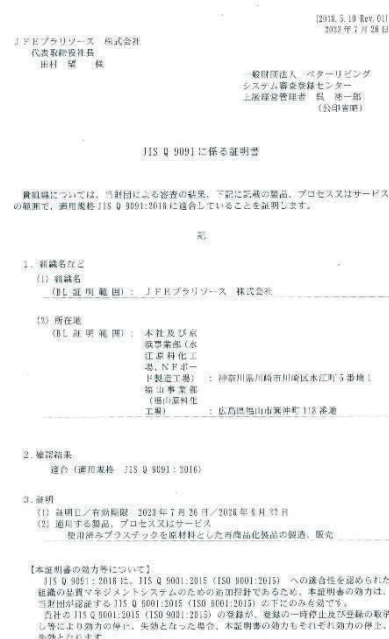
ISO 14001



材料リサイクルにおいては、JIS Q 9091:2016 の第三者認証を2020年に取得しています。

JIS Q 9091:2016とは、事業者から自動車メーカーや家電メーカー等に提供されるプラスチック再生材料の品質を保証するための規格です。当規格を基に、リサイクラー（当社）やコンパウンダーなどの事業者が品質マネジメントを行います。本認証を取引関係者間で利用することによりリサイクルプロセスの信頼性を高め、再生材の活用やリサイクルの促進に寄与することが可能となります。尚、JIS Q 9091はISO 9001:2015の追加指針であり、プラスチック再生材料の提供にかかわる要求事項が追加で設けられています。

JIS Q 9091:2016



品質・環境マネジメント取り組み状況

年間計画と実績評価

全社共通及び事業部個別の活動は年間スケジュールを基に実施しています。目標達成レベルを設定し、その実績や達成度を月1回事業部長会において評価しています。PDCAサイクルがきちんと機能していることが有効性の確認となります。従業員ひとりひとりが常にPDCAを意識し継続的改善を行い、意図した成果を出せるよう階層ごとにレベルを設定して活動に取り組んでいます。

重点実施事項		活動内容	
1	品質および環境マネジメントシステム（QMS及びEMS）の導入と全従業員による取り組み	1	品質環境マニュアルの教育
		2	各工場のQMS及びEMSの教育
		3	内部監査受審と是正
		4	自主パトロール（環境バト、品質バトなど）
2	環境汚染の予防と環境負荷低減の維持・向上・継続	1	油・廃液流出トラブル防止：油・廃液流出防止訓練実施
		2	火災訓練・消火訓練実施・発災リスクの見直し
		3	著しい環境側面の監視と緩和措置
3	関連する法令、その他要求事項の順守	1	環境関連法・条例、その他変更点まとめと関係者への周知
		2	環境活動計画表の実施状況確認
4	QMS及びEMSの継続的改善の推進	1	技術標準の適時作成と定期見直し
		2	作業標準の適時作成と定期見直し（読み合わせ）
		3	作業標準の教育（演練：重要12標準を選択）
		4	計測機器点検
5	個別活動目標	1	ISO18263適合：規格コード合格100%
		2	クレーム件数、コンプレイン件数
		3	ペレット製品歩留及びNFボード合格率
		4	電力原単位（kwh/ペールt）
		5	都市ガス原単位（m3/ペールt）

No.	重点実施事項	No.	活動内容	目標達成レベル	担 当		実 施 計 画											
					誰が	誰に	4月 交通安全 運動(春)	5月	6月 環境月間/危 険物安全週間 ISO審査	7月	8月	9月 防災週間/交 通安全運動 (秋)	10月 労働衛生 週間	11月 火災予防 運動(秋)/ 品質月間	12月	1月	2月	3月 マシジナル ビュ
1	品質および環境マネジメントシステム(QMS及びEMS)の全従業員による取り組み	1	品質環境マニュアルの教育 :企画部長→室工場長	全員	企画部	室工場長		●										
		2	各工場のQMSおよびEMSの教育 :室工場長→全員	全員	室工場長	全員			●									
		3	内部監査受審と是正	100%是正	工場長	副工場長											○	
		4	自主パトロール(環境バト、防災バト、品質監査等)		工場長	全員			● 環境P				● 衛生P	○ 防災P				
		5	その他						● ISO審査			● 大地震 避難訓練		○ 品質P				
2	環境汚染の予防と環境負荷低減の維持・向上・継続	1	油・廃液流出トラブル防止：油・廃液流出防止訓練実施	1回/年	副工場長	全員						●						
		2	火災訓練・消火訓練実施・発災リスク管理表の見直し	2回/年	副工場長	全員	○	一●				●		○				
		3	著しい環境側面の監視・軽減	1回/年	工場長	副工場長	○	一●										
3	関連する法令、その他要求事項の順守	1	環境関連法・条例、その他変更点まとめと関係者への周知	1回/年	企画部	室工場長	●											
		2	環境活動計画表・実施状況(以下の項目を含む) 1)容リ法2)マニフェスト3)ばい煙測定4)騒音5)改正フロン法 他 の進捗状況	毎月	工場長	副工場長	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○
4	QMS及びEMSの継続的改善の推進	1	技術標準の適時作成と定期見直し	1回/年	工場長	副工場長		●				●						
		2	作業標準の適時作成と定期見直し(読み合わせ)	1回/年	副工場長	副主任	●						●					
		3	作業標準の教育(演練:重要12標準を選択)	1回/月	副主任	全員	● 重機	● 重機	● ペレタイザー	● PVC水替	● 重機	● 光学式	● 小型振動機	○	○	○	○	○
		4	計測機器点検: 工場長月末確認、副工場長:毎日確認	1回/月	工場長	副工場長	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○

環境への取り組み

環境に係わるデータ公開

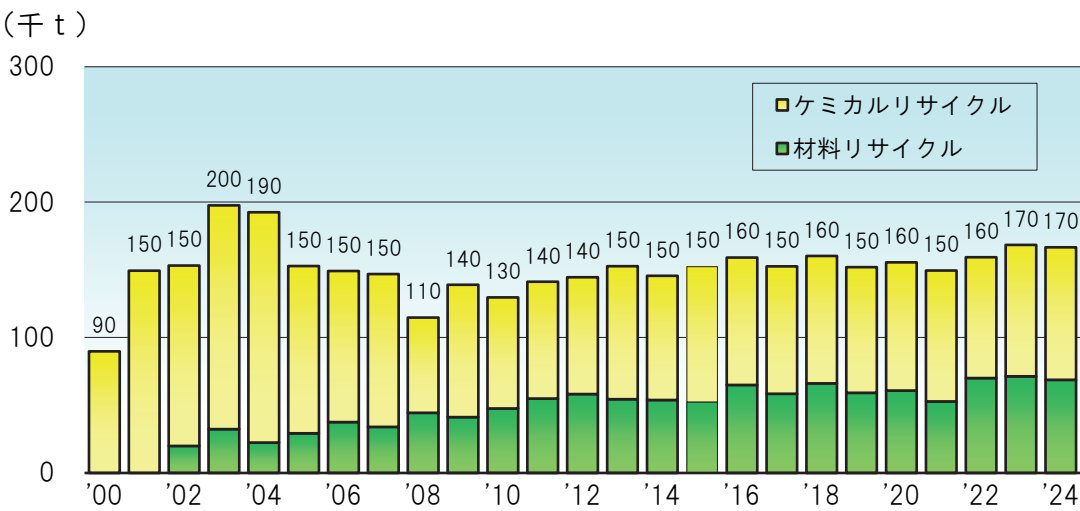
当社HPでは、施設の維持管理記録を公開しています。工場ごとに管理値を設定し取り組み、各月の実績を毎月更新しています。

	目的	区分	項目	単位	管理区分	目標値	至近の測定実績				目標値	至近の測定実績			測定頻度	備考
							4月	5月	6月			4月	5月	6月		
水江	公害防止	①大気 (1系)	ばいじん	g/m³N	自主管理値	0.030以下	-	-	0.002	福山	0.030以下	-	-	不検出	6ヶ月毎	ライン毎
			硫酸酸化物	m³N/h		1.85以下	-	-	0.1		1.85以下	-	-	不検出		
			窒素酸化物	ppm		230以下	-	-	0		230以下	-	-	不検出		
		②大気 (2系)	ばいじん	g/m³N	0.030以下	-	-	0.004	0.030以下		-	-	不検出			
	環境負荷管理	③振動	硫酸酸化物	m³N/h	1.85以下	-	-	0.1	1.85以下		-	-	不検出	毎月	工場全体	
			窒素酸化物	ppm	230以下	-	-	0	230以下		-	-	不検出			
			④騒音	敷地境界	dB	70以下	-	-	42.0		65以下	-	-			-
		化学物質管理	⑤副生資源量	敷地境界	dB	75以下	-	-	62.3		60以下	-	-			59.1
	⑥副生資源熱利用効率			kg/t	510以下	420	461	314	333以下		362	284	378			
				%	79以上	79	79	79	83.5以上		82.7	82.0	82.6			
			用役管理	⑦廃液排出量	kg/t	36以下	8	10	9		0.1以下	5	0	0		
	⑧CO₂排出量	kg-CO²/t			400以下	330	394	352	231以下		203	164	197			
		⑨消泡剤			kg/t	3.6以下	2.5	3.1	3.1		2.8以下	3.0	2.0	2.7		
				燃料	⑩油脂	kg/t	0.50以下	0.32	0.33		0.32	0.1以下	0.02	0.01	0.02	
	⑪電力		kWh/t			650以下	535	643	576		394以下	401	327	394		
		⑫都市ガス	m³N/t			15以下	12.4	13.3	11.6		6.4以下	5.5	4.0	4.2		
⑬蒸気			kg/t		25以下	3.3	1.9	1.8	-	-	-	-				
	⑭水資源		m³/t	0.22以下	0.17	0.19	0.21	0.18以下	0.19	0.15	0.18					
		⑮車両燃料	軽油	L/t	5.0以下	3.6	4.0	3.1	0.73以下	0.87	0.47	0.76				
ガソリン			mL/t	55以下	45.3	0.0	50.3	3.5以下	0.0	0.0	0.0					

容器包装プラスチックリサイクルによる環境負荷削減

当社の行う容器包装プラスチックリサイクル事業は、CO₂排出削減に大きく寄与しています。以下に、リサイクル手法毎の評価方法による削減効果を算出しています。2024年度のCO₂排出削減量は170千tとなり、これは一般家庭の年間排出量のおよそ6.9万世帯分に相当します。

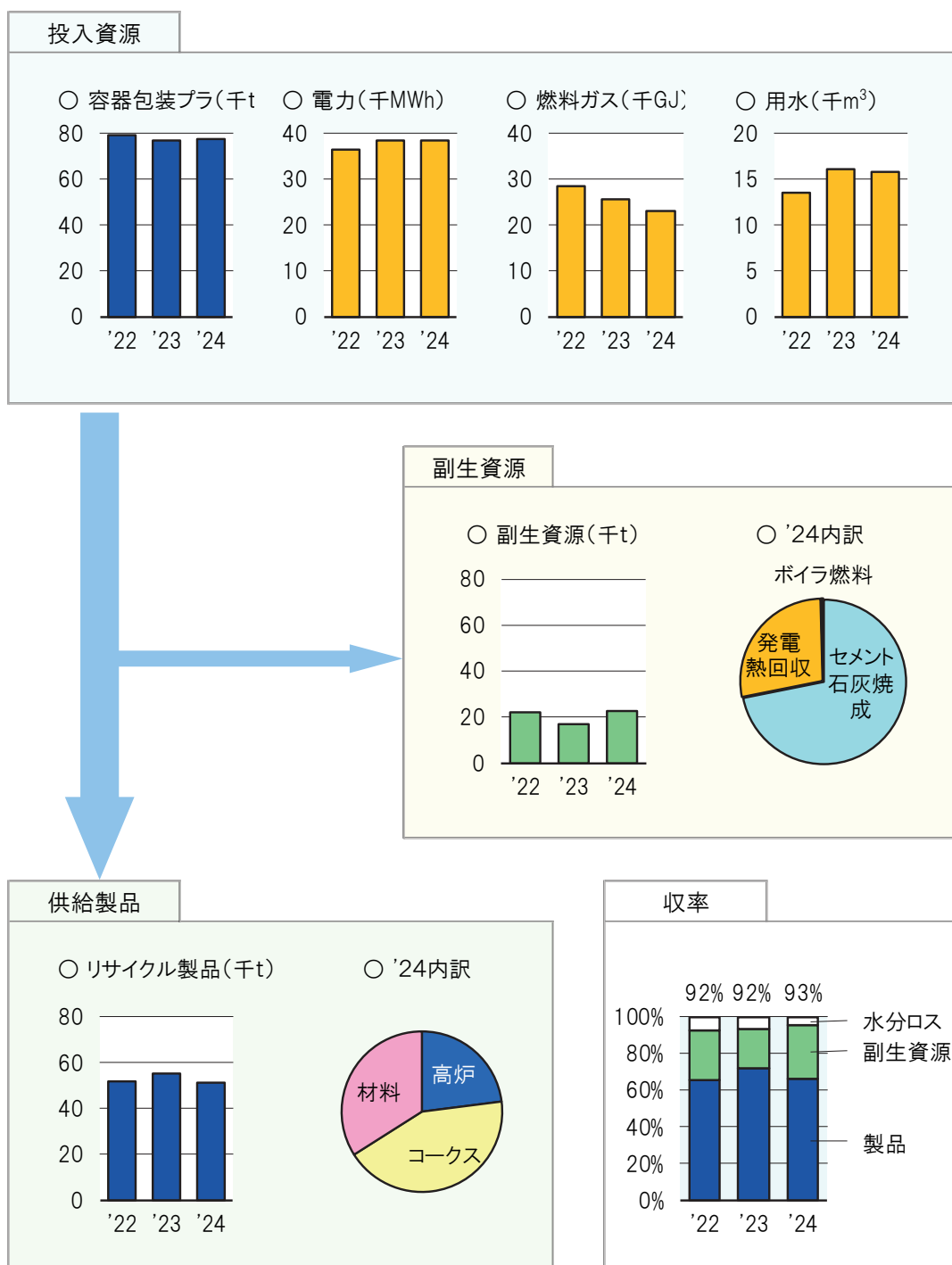
➤ 容器包装プラスチックリサイクルによるCO₂排出削減量



容器包装プラスチックリサイクルのマテリアルフロー

一般家庭から排出された容器包装プラスチックを原料として、「高炉還元剤」、「コークス炉化学原料」、「材料リサイクル」のリサイクル製品を製造しています。

容器包装プラスチックは、廃棄すれば環境に負の影響を及ぼします。一方、回収し適切な処理を行えばすべて再利用可能なものです。当社はすべて再利用を行っており、リサイクル製品及び副生資源を合わせた総合収率は 90%を超え、水分ロス以外の全量が有効利用されています。



私たちグリーン推進隊が継続する環境美化活動

京浜地区・福山地区全従業員参加型で、常に綺麗な花壇を目指し、コミュニケーションを大切にしながら、種から色とりどりの花や野菜を育てています。当社HPにて活動風景を発信しています。



ソーシャルコミュニケーション

お客様・お取引様とともに

Webサイトに常に新しい情報を

当社は、NF ボード®製品紹介ページに「DIY コーナー」を設け NF ボード®の活用方法をご紹介します。ホームページの更なる「見やすさ」と「わかりやすさ」の改良に努めています。また、各種バナーを表示し、ステークホルダーのみな様により一層、当社の取り組みを知って頂くため充実を図っています。

▶トップページ

当社が独自開発を行ったNF ボード®をトップページに置き、トピックスなど随時更新をしております。「グリーン推進隊」からのお知らせも含め、当社の取り組みをお知らせできるサイトづくりを目指しています。

▶NF ボード®を快適にご使用頂くために

従来、お客様より NF ボードを切断する際に最適な刃物についてお問い合わせを多く頂いておりました。そこで、刃物メーカーと協力し、NF ボードの切断に適した刃物の選定試験を実施しました。その結果、使用する刃物によってNF ボードの切断可能枚数が大きく異なることが分かりました。この結果を製品カタログに落とし込み、最適な切断刃として、ご紹介を開始しました。

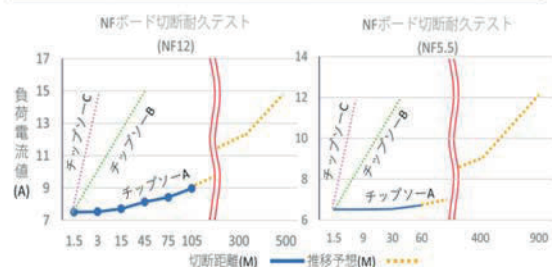


NF ボード®切断試験結果

<NF ボード®切断試験>

試験方法：切断機に刃物を取り付けてNFボード12mm及び5.5mmを切断。
その紙屑を電流値で取り、グラフ化した。
試験機関：株式会社小山金属工業所
試験条件：使用試験機：Makita5735CB(電子モーター100V 12A 50-60Hz 1140W)
切断速度：0.1m/s(切断時間：3秒間)

製品名	サイズ(mm)	刃厚(mm)	刃数	用途	評価
チップソーA	125	1.5	18	パネチクルボード、MDF	◎
チップソーB	125	1.2	46	カーポート、屋根、外壁材	△
チップソーC	125	1	60	薄板プラスチック	×



地域社会のみな様とともに

第 58 回福山ばら祭 2025

第 58 回となる福山ばら祭 2025 のテーマは、「ROSE! ROSE!! ROSE!!!～福山の歴史と誇り～」。市民・企業・行政が繋がり「ばらのまち福山」の素晴らしさを一緒に伝え、未来へと繋いでいくことを目指し開催されました。当社は各会場のシンボルとなるばら公園のメインゲート「ウェルカムゲート」に協賛いたしました。来場者数は 2 日間で約 50 万人。ばらオーナーとして当社も参加する緑町公園のばら花壇ローズヒル（ピラミッド型のばら花壇）も見どころのひとつであり、大盛況の様子でした。ローズマインド（思いやり・優しさ・助け合いの心）を持って、福山市民はもちろんのこと訪れたたくさんの方々を笑顔にする素晴らしいイベントである福山ばら祭を当社は今後も応援してまいります。



第 20 回世界バラ会議福山大会 2025

本年は福山市最大の祭である「福山ばら祭」に合わせ、「世界バラ会議福山大会」及びばらの祭典「Rose Expo FUKUYAMA 2025」が開催されました。

2024 年 4 月には、ばら公園がリニューアルオープン。ばらの品種数が約 390 種増加したほか園内にアーチや散策路も新設され、今まで以上に楽しめる空間となり本大会を一層華やかに彩りました。「みんなで創る、みんなで盛り上げる、みんなで輝く」のコンセプトのもと「世界に誇るばらのまち福山」として世界各国の方々をおもてなしするすばらしい国際会議に当社は協賛の形で参加させて頂きました。



展示会への出展

▶第3回農業 WEEK 「J AGRI KYUSHU」

2025年5月28日～30日に熊本県のグランメッセ熊本にて、第3回「J AGRI KYUSHU」展が開催され、弊社は同展示会内の「畜産資材 EXPO」に NF ボード®を出展しました。NF ボード®の主な販売分野である畜産業のメッカとも言える九州での展示会には、生産者を中核に多くの業界関係者が来場されました。

従来、九州は気候的に温暖な地域のため、簡易的な畜舎仕様となることが多く、比較的建物にコストをかけない特徴を持つ地域でした。しかし、昨今頻発している鳥インフルエンザなどの伝染病を背景に、「コストをかけてでも NF ボード®のような衛生的な資材を使用した建物を建てるべき」と考えを改めるお客様も来場され、家畜飼養衛生管理に対する意識の高まりを感じた展示会となりました。



▶第15回農業 WEEK 「J AGRI TOKYO」

2025年10月1日～3日に千葉県の幕張メッセにて、第15回「J AGRI TOKYO」が開催され、弊社は同展示会内の「畜産資材 EXPO」に NF ボード®を出展しました。廃プラスチックを主原料とし、環境配慮型資材である NF ボード®は時代にマッチした製品であるとの評価を頂くことが多く、新たに販売を希望される商社様に多数お越しいただきました。

また、展示会後にカットサンプルや製品カタログの発送要望も頂いており、リサイクル製品への関心度の高まりを感じた展示会となりました。



従業員とともに ～安全安心な職場づくり～

安全確保から更に安心できるレベルへの挑戦

労働安全衛生方針を策定し、当社は「安全職場」から「安全安心な職場」に向けて日々努力しています。

労働安全衛生方針

<基本理念>

企業は人であり、労働安全衛生の確実な実施は、企業経営の基礎であります。

当社は、「安全は全てに優先する」の理念のもと、労働安全衛生管理を徹底し、社員のみならず当社に関わる全ての人・地域に対し、安全・健康を届けうる職場・企業を目指します。

<基本方針>

当社は、以下に基づき労働安全衛生マネジメントシステムの継続的な改善を図り、年初に「安全衛生防災活動方針」を作成し労働安全衛生活動を行っていくことを約束します。経営者は、一年をとおして現場パトロールを行い労働安全衛生活動の継続と維持向上を行います。

- (1) 当社の事業活動による労働安全衛生リスク及び労働安全衛生機会への影響を評価し、重要な項目について、技術的かつ経済的に可能な範囲で、活動目標を「安全衛生防災活動方針」に定めます。
活動目標は「各職場災害ゼロの達成」です。
- (2) 労働安全衛生関係法令等の法的要求事項及び社内基準を含めたその他の要求事項を順守し、より一層の労働安全衛生管理に努めます。
- (3) 危険源を除去し、労働安全衛生リスクを低減します。
- (4) 当社が行う事業活動の全段階を通じて、労働安全衛生に与える影響の中で、特に人権リスクを含む以下の項目について、優先的に活動を推進する必要性を認識して、全社的活動として行動します。
 - ① 過重労働及びメンタルヘルスに対して健康障害を防止するため、労働安全衛生管理体制の充実を図り、社員の健康確保対策を推進します。
 - ② 全従業員とのコミュニケーション（協議及び参加）を図り、全員参加の労働安全衛生活動を実行していきます。
- (5) 全従業員に対し、労働安全衛生に関する教育及び意識向上活動を実施します。
- (6) 本労働安全衛生方針は、文書により全従業員に周知させ、社外にも公開します。

2025年1月1日

JFEプラリソース株式会社

代表取締役社長

塚江亮介

2024-25年度の主な安全活動

当社は、会社の財産である従業員の安全と健康を守るため、毎年、安全衛生防災活動方針を作成しています。活動方針をどのように実行していくかそれぞれの職場で活動計画を作成し実行しています。

人と重機の接触防止対策

人と重機の接触事故が発生しない作業環境の実現は当社の目標のひとつです。作業基準で人と重機の近接作業を禁じ、運転訓練をしています。こうしたソフト面の対策だけでは防ぎきれないこともあります。当社ではソフト面の対策に加え、歩車分離柵、パトライト、信号機の設置等のハード面での対策を行い、人と重機の接触事故が起これない作業環境の整備を引き続き進めています。

【歩車分離柵】



【車両作業スペースの舗装】



熱中症対策

近年の夏は最高気温 30℃以上の真夏日、35℃以上の猛暑日になる日が多く発生しています。当社では、「熱中症警戒アラート」発表時の対応基準を作成するとともに、工場の通気窓の追加、空調服の貸与、ちょい休・ちょい飲みなどの他、フォークリフトへのミスト発生装置の設置なども行い、熱中症の発生防止に努めています。熱中症の発生はありませんでしたが、今後とも、熱中症防止対策を進めていきます。

ファン設置



エアコン設置



その他の安全衛生対策

サル梯子を階段に変更する等による作業環境の改善を引き続き行っている他、注意喚起の掲示の充実を行い常に安全意識を持てる取り組みをしています。

改善前



改善後



パトロールの実施

安全安心な職場を目指すためには、日頃から状態や行動をチェックしていくこと、よりよい環境にしていくための方策を考えていく必要があります。当社では、社長をはじめ管理職、管理監督者、安全担当、従業員代表、産業医、協力会社代表が、安全に限らず各種パトロールを実施し、良い指摘は他工場へ展開する、改善を要する指摘は即日から一カ月以内を目標に改善を実施するなどにより、職場環境の維持向上に努めています。

他社パトロール受入れ



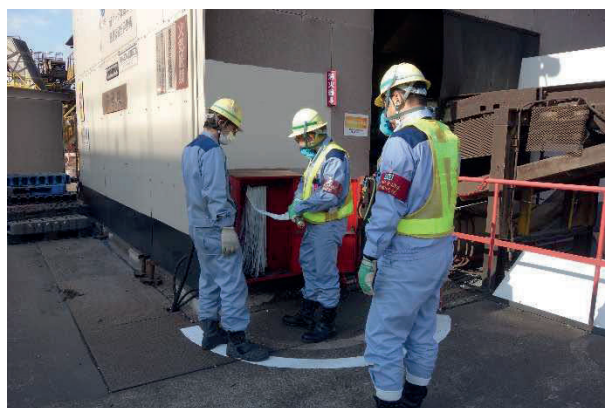
危険物パトロール



衛生パトロール



防災パトロール



訓練活動

全社で年間約7万トンの指定可燃物（廃プラスチック）を扱う当社では、火災を著しい環境側面のひとつと考えています。このため、毎年消火訓練を実施しています。

また、地震を想定した避難訓練などを実施し、万一来臨に備えています。

消火訓練



ISO45001 認証取得

2022年12月に、労働安全衛生マネジメントシステムの国際規格であるISO45001を取得しました。

これにより、労働安全衛生方針に基づき安全衛生活動が行われていること、安全衛生に関する改善の進捗状況が、誰でも確認しやすくなりました。

また、従業員にわかりやすく浸透させるため曼荼羅チャートを作成し、社内に周知しています。



労働安全衛生マネジメントシステム ISO45001

太文字および太赤文字：製造現場(工場)が対象

P:Plan(計画) D:Do(実行) C:Check(評価) A:Action(改善)



<p>6. 製造現場：簡条4(守るべき事柄) D</p> <p>1) 掲示・表示・指示文書の責任の明確化 2) 技術標準、作業標準の整備、見直し、遵守 3) バトロール指摘、事故災害： 処置・報告・是正</p> <p>↓ 法令違反ゼロ(法令遵守) 危険源の除去、安全衛生リスクの最小化</p>	<p>3. 評価：簡条9 C、A</p> <p>1) 安全衛生委員会、バトロール * 製造現場状態 2) 有効性・評価</p> <p>↓ 内部監査、マネジメントレビュー、改善 ↓ 次年度の安全衛生防災活動計画</p>	<p>7. 社長の約束事項：簡条5</p> <p>1) 説明：安全衛生委員会、マネジメントレビュー 2) 方針、目標と戦略的な方向性の両立 3) 経営資源の効果的投入 4) 「適合」の重要性を社員に伝える 5) 意図した成果達成(継続的改善) 6) 伝達・教育・訓練の指揮、支援 7) 管理者の役割を支援する</p>
<p>2. リスクへの取組み：簡条6 D</p> <p>1) 達成への確信を与え、継続的改善を成す 2) 望ましくない影響は防止/低減 安全衛生目標(測定可能、監視、伝達各項目) ワースト5活動(現状、対策後、活動後の評価) 設定・更新</p> <p>↓ 計画表：安全衛生委員会で進捗報告、変更 設定・2回/年報告</p>	<p>意図した成果：達成すべきこと</p> <p>1. 安全衛生法令を守る 2. リスクアセスメントを行い 危険源を除去及び リスクを最小化する 3. PDCAを実行する 各実行、システム自体</p>	<p>4. 改善：1回/年以上行なう：簡条10 A</p> <p>1) 意図した成果(左記)の達成 2) 安全衛生パフォーマンスを向上させる ため本システムの評価と継続的な改善 <手段：内部監査・災害報告書、実行の分析・ 評価></p> <p>1) バトロール指摘・事故災害の評価 2) 有効性の評価(各実行、システム自体)</p> <p>↓ バトロール指摘・事故災害処置、 マネジメントレビュー、改善</p>
<p>5. 運用(するもの)：簡条8 D</p> <p>1) 製造：技術標準、個人カルテ 2) 外部委託：購入仕様書、工事要求書、 請負契約書 3) 設計・開発：ファイル・セーフ、 フル・プルーフ 4) 異常兼是正報告書、災害報告書</p>	<p>1. リスクへの取組み：簡条6 P</p> <p>危険源の特定 ↓ 評価 ↓ 1) 危険源(の除去、低減) 2) 遵守義務の正しい遂行 3) 法令違反リスク に取組む</p>	<p>8. 資源：簡条7</p> <p>1) 人 2) インフラ 3) 技術 4) 資金：安全投資 5) 知識：教育、6) 力量：訓練 7) 安全衛生リスクの認識 8) コミュニケーション 内部：行事 外部：安全衛生委員会議事録 9) 文書：情報 作成と更新および管理</p>

従業員とともに ～ウェルネスライフの実現に向けて～

ハラスメントのない安心できる毎日のために

当社は、全てのステークホルダーに向けハラスメント防止について宣言しています。
当社ホームページにも掲載しています。

ハラスメント防止宣言

職場におけるハラスメントは、従業員の個人としての尊厳を不当に傷つける社会的に許されない行為であるとともに、従業員の能力の有効な発揮を妨げ、また、会社にとっても職場秩序や業務の遂行を阻害し、社会的評価に影響を与える問題です。当社はハラスメントのない健全な職場環境の確保を企業の責任と考え、基本方針を定めます。

1. 当社は下記のハラスメント行為を容認しないことを宣言します。

(1) パワーハラスメントに類する行為

職場の上下関係、雇用形態の違い等による職務上の地位や権限など権力差を背景にして、相手の人格や尊厳を侵害する行為を行うことにより、相手や周囲の人に身体的・精神的な苦痛を与え就業環境を悪化させる行為。

(2) セクシャルハラスメントに類する行為

事業主は、職場において行われる性的な言動に対するその雇用する労働者の対応により当該労働者がその労働条件につき不利益を受け、又は当該性的な言動により当該労働者の就業環境が害される行為。

(3) 妊娠・出産・育児・介護に関するハラスメント行為

職場において行われる上司・同僚からの言動（妊娠・出産したこと、育児休暇等の利用に関する言動）により、妊娠・出産した「女性労働者」や育児休業等を申出・取得した「男女労働者」等の就業が害される行為。

(4) その他のハラスメント

2. この方針の対象は、社員、嘱託社員、契約社員、パートタイム社員、派遣社員等当社において働いているすべての労働者を含みます。

3. パワーハラスメントに関する相談窓口について

当社には、内部通報制度があり、相談者の解決に向けたサポートを行っています。なお、相談者はもちろん、事実関係の確認に協力した者に不利益な取り扱いはいりません。

4. パワーハラスメント行為者への対応について

パワーハラスメントの行為者に対しては、事実関係を調査の上、就業規則に基づき、厳重な処分を行います。その他、行為者の異動等、被害者の労働条件および就業環境を改善するため必要な措置を講じます。

J F E プラリソース株式会社
代表取締役社長 堀江 亮介

また、全従業員を対象にeラーニングによるハラスメント研修を実施しております。

産業医との連携

当社は従業員のフィジカル・メンタル両面の健康を守るため、産業医と緊密に連携を図っています。2024年度は、「熱中症対策」、「腰痛予防」など職場環境に関するもののほか、「適切な睡眠」、「感染症」、「アルコール」などの日常生活に関わるものまで、幅広くご講話いただきました。

2024年度 産業医講話	
4月	『睡眠』 適正な睡眠時間の目安について 睡眠休養感を低下させる要因
5月	『熱中症を防ごう！』 暑い所で、体調不良は熱中症を疑う 高血圧・糖尿病を考慮した水分、塩分補給について
6月	『ストレスチェック』 部下が相談しやすい関係づくり 相談先による「できること」の違い
7月	『溶連菌感染症について』 感染経路・予防するには 劇症型溶血性レンサ球菌感染症
8月	『熱中症対策』 脱水状態のセルフチェック方法のご紹介 暑熱環境で作業中に体調不良になった方への対応
9月	『腰痛について』 受診の目安 腰痛予防対策

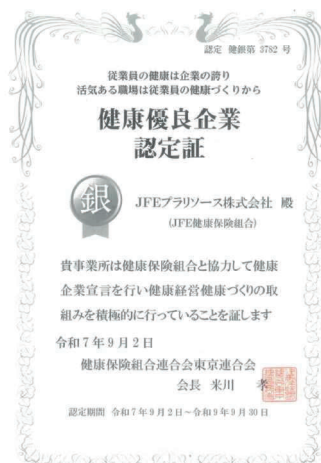
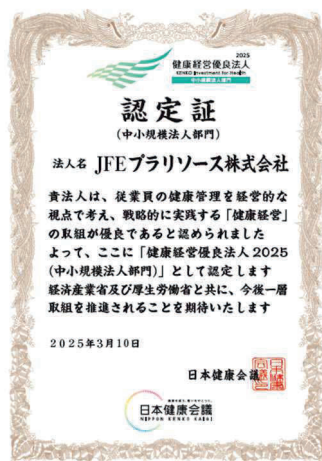
10月	『職場環境改善』 職場環境改善の有効性 ストレスチェックの集団分析を用いた職場環境改善
11月	『アルコール』 飲酒による疾病リスク 健康を守るための飲み方
12月	『京浜地区産業医巡視まとめ』 産業医巡視報告（好事例を中心に）
1月	『寒冷作業』 寒冷暴露による身体への影響 予防対策
2月	『健康寿命と喫煙』、『ストレスチェック&定期健康診断結果報告』 喫煙はなぜ身体に悪い 禁煙の効果・メリット ストレスチェック&定期健康診断 結果まとめ
3月	『ノロウイルス感染症について～感染予防と適切な対応～』 ノロウイルスとは 職場での集団感染を防ぐための対応策

「健康経営優良法人 2025(中小規模法人部門)」の認定および「健康優良企業「銀の認定」」を受けました。

健康経営優良法人とは、地域の健康課題に即した取組や日本健康会議が進める健康増進の取組をもとに、特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業等の法人を顕彰する制度です。経営理念、組織体制、制度・施策などが評価対象です。当社は2021年に初めて認定されました。メンタルヘルスケアのeラーニング、女性の健康に関する情報配信などの活動が評価され、健康経営優良法人（中小規模法人部門）の認定を5年連続して受けることができました。

また、JFE 健康保険組合と協力して2024年10月に健康企業宣言を行い、2025年9月2日付で健康優良企業「銀の認定」を受けました。

引き続き、従業員の健康維持・増進に努めていきます。



ダイバーシティの推進

ダイバーシティ経営とは、性別・人種・国籍・宗教・年齢・障がいの有無などの多様性だけでなく、キャリアや経験、働き方などの多様性も含んだ人材を活かし、その能力が最大限発揮できる機会を提供することで、イノベーションを生み出し、価値創造につなげていく経営ことです。当社では現在、日本をはじめとしブラジル・コロンビア・ベトナムなどの出身を異とする従業員が各職場にて活躍しています。同様に、障がい者も本社の企画・管理部門で活躍しており、周囲の人の偏見や差別意識といったバリアもなく経営に貢献しています。

また、当社が直接採用した従業員は、すべて中途採用でありそのキャリアや経験を活かして経営に貢献しています。職場内では、グループや個人間でそれぞれが工夫を重ねコミュニケーションを図っています。当社は、制度などの枠組づくりに加えひとりひとりが他者を受け入れ理解し認め合うことのできる環境醸成を継続的に推進しています。

外国人従業員向け標記



段差の無い執務室



女性用更衣室

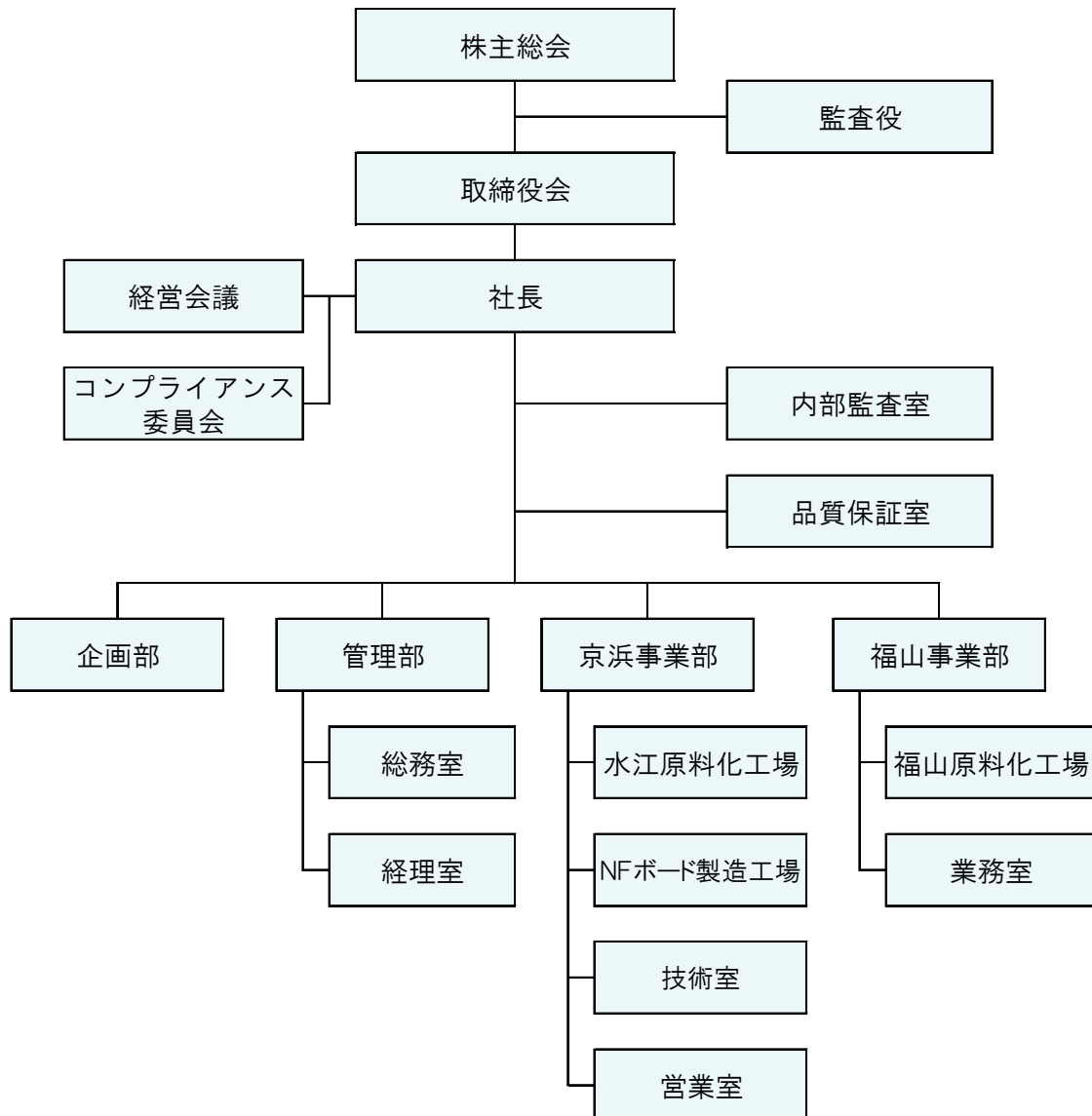


コーポレートガバナンス

JFEプラリソース株式会社は、ステークホルダーのみな様のニーズと期待に応えることを企業経営の最重要課題とし、体制を整備しています。

経営体制

スリムな経営体制を構築し、効率的に事業推進することで、競争力の強化と収益力の拡大を図っています。



内部統制構築の基本方針

当社の企業行動指針や取締役会規則などをはじめとする、業務遂行に関わるすべての規程、規則などは包括的・一体的として当社の内部統制体制を構成するものです。企業活動に関わる法令変更または社会環境の変化に従い、さらには業務執行の効率性の観点においてその目的・趣旨が実現されるよう努めるものとしています。

CSRマネジメント

JFEプラリソースは、長期的な視点に立ち持続可能な社会を構成していく一員として価値ある事業活動を継続することで社会的責任（CSR）を実践します。

JFEプラリソース株式会社 行動指針

JFEプラリソース株式会社の役員および社員は、「企業理念」の実現に向けたあらゆる企業活動の実践において、「行動規範」の精神に則るとともに以下の「行動指針」を遵守する。

経営トップは自ら率先垂範の上、社内への周知徹底と実効ある体制整備を行い、企業倫理の徹底を図る。

本行動指針に反する事態には、経営トップ自らが解決にあたり再発防止に努める。また、社内外への迅速かつ的確な情報公開を行い、権限と責任を明確にした上で厳正な処分を行う。

1. 良質な商品・サービスの提供

優れた技術に基づいた安全で高品質の商品とサービスの提供に努めるとともに、個人情報・顧客情報の保護に十分配慮し、お客様から高い評価と信頼を得る。

2. 社会に開かれた企業

株主はもとより、広く社会とのコミュニケーションを図り、企業情報について、社会への積極的な情報公開に努める。

3. 社会との連携と協調

良き企業市民として、社会との連携と協調を図り、積極的な社会貢献に努める。

4. グローバル化

グローバルな視点を持ち、各種の国際規範はもとよりそれぞれの文化や習慣を尊重し、世界の様々な人々との相互理解に努める。

5. 地球環境との共存

地球環境との共存を図るとともに、快適な暮らしやすい社会の構築に向けて主体的に行動する。

6. 政治や行政との関係

政治や行政との健全かつ正常な関係の維持・構築に努める。

7. 反社会的勢力への対応

市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体とは、一切の関係を遮断し、違法・不当な要求には応じない。

8. 人権の尊重

社会の人々、従業員を個として尊重し、企業活動において一切の差別を行わない。

9. 働きがいのある職場環境

従業員にとって魅力に富み、安全で働きがいのある職場を提供する。

10. 法令の遵守

法令を遵守し、公正で自由な競争に心がけ、適法な事業活動を行うとともに、健全な商慣習に則り、誠実に行動する。

購買基本方針

JFEプラリソースは、購買活動の推進にあたっては、すべてのお取引先と良きビジネスパートナーとして、相互理解と信頼関係に基づき、以下の購買基本方針のもと、公正・誠実に活動してまいります。

1.コンプライアンスの徹底

当社はコンプライアンスを購買活動の基本に据え、関連する法令、社会規範を遵守し、誠実に行動するとともに、取引を通じて得た情報の管理を徹底いたします。

また、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体とは、一切の関係を遮断し、違法・不当な要求には応じません。

2.公平な競争機会の提供

当社は広く世界に目を向け、競争力のある国内外のすべてのお取引先に公平に機会を提供いたします。

3.パートナーシップ

当社はお取引先と相互理解と信頼関係の維持向上に努めるとともに、ビジネスパートナーとして相互の発展を目指してまいります。

4.お取引先の選定

当社はお取引先の選定にあたっては、品質、技術、価格、納期、安定供給力、信頼性、経営の安定性およびCSR活動への取組み姿勢を総合的に勘案し、常に適切な品質管理・品質保証が徹底されていることを前提に経済合理性に基づき判断いたします。

5.グリーン調達による地球環境への調和

当社は購買取引にあたっては、資源保護、環境保全に十分配慮いたします。

6.CSR（Corporate Social Responsibility 企業の社会的責任）調達の推進

当社は事業活動に関わるお取引先を含めたサプライチェーン全体でCSRに取り組む、CSR調達を推進します。

そのなかで、品質不適切行為の防止についても取り組んでまいります。

お取引先の皆様へ：CSR調達ガイドライン（Corporate Social Responsibility 企業の社会的責任）

当社は、CSRの定義を「ステークホルダーの満足度を高め、企業価値を向上させること」とし、会社の存続基盤にかかわる環境保全、安全、防災、コンプライアンスなどを最優先に取り組む課題として位置付けています。

当社ではビジネスパートナーであるお取引先の皆様と社会的責任意識を共有し、C S Rに関する取り組みをサプライチェーン全体で推進して行きたいと考えております。

お取引先の皆様におかれましても、以下の項目についてご理解頂き、積極的に推進していただきますようご協力をよろしくお願いいたします。

(1) C S R推進のための体制の構築

コンプライアンスの徹底と企業倫理の醸成を図り、C S Rに関して社内への周知徹底と実効あるC S R推進体制の整備をお願いいたします。

(2) コンプライアンスおよび情報管理

以下の各項目について、ご対応くださいますようお願いいたします。

- ① お取引先の皆様が事業活動を行っている国・地域の法令・社会規範の遵守
- ② 市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体との一切の
関係の遮断
- ③ 責任ある鉱物調達に関わる法令等の遵守および紛争鉱物の使用回避
- ④ 取引を通じて得た機密情報を適切に管理・保護する仕組みの構築と運用

(3) 人権・労働安全衛生への配慮

お取引先の皆様の事業活動において、基本的な人権を尊重し（一切の児童労働・強制労働・人身売買・非人道的行為の排除を含む）、また、あらゆる差別を排除するとともに、安全で健康に配慮した快適な職場環境の実現に努めるようお願いいたします。

(4) グリーン調達による地球環境への配慮

資源保護、環境保全に十分配慮し、環境と調和した事業活動を継続的に推進して頂きますようお願いいたします。

また、各種規制、法則に則り、製品、梱包材料などに関し化学物質の管理徹底をお願いいたします。

(5) 安全で競争力ある製品・サービスの提供

製品・サービスの提供にあたっては、常に安全性の確保と、競争力ある品質・価格・納期での安定供給をお願いいたします。

(6) 品質不適切行為の防止

製品品質にかかわる検査結果の改ざん、捏造および契約違反等の不適切行為について発生防止の取り組みの推進をお願いいたします。

また、当社の製品の品質に変化を及ぼす恐れのある各種変更等を行う場合は事前に当社に通知し、常に適切な品質管理・品質保証が徹底されるようお願いいたします。

(7) コンプライアンス違反発生時

万が一お取引先の皆様の事業活動においてコンプライアンス違反が発生した場合は、当社に速やかに申告してください。原因調査結果および再発防止対策につきましても報告をお願いいたします。

J F E プラリソースは、長期的な視点に立ち持続可能な社会を構成していく一員として価値ある事業活動を継続することで社会的責任（C S R）を実践します。

SDGsへの取り組み

当社は、2018年よりSDGs（持続可能な開発目標）に対応する取り組みを進めています。J F E グループが特定したCSR重要課題を主軸とし、経営・環境・安全・人権・ガバナンスにおいてJ F E プラリソースの主な具体的実行テーマを設定しています。

17のSDGs目標と169の対象とするターゲットを照らし合わせ、対象とするターゲットを定め事業活動を行っています。

当社の目指すべきゴールに向けて、本取り組みを継続し発展させて参ります。

詳細及び本報告書対応ページ早見表は、巻尾に掲載しています。



事業紹介

容器包装プラスチックのリサイクル

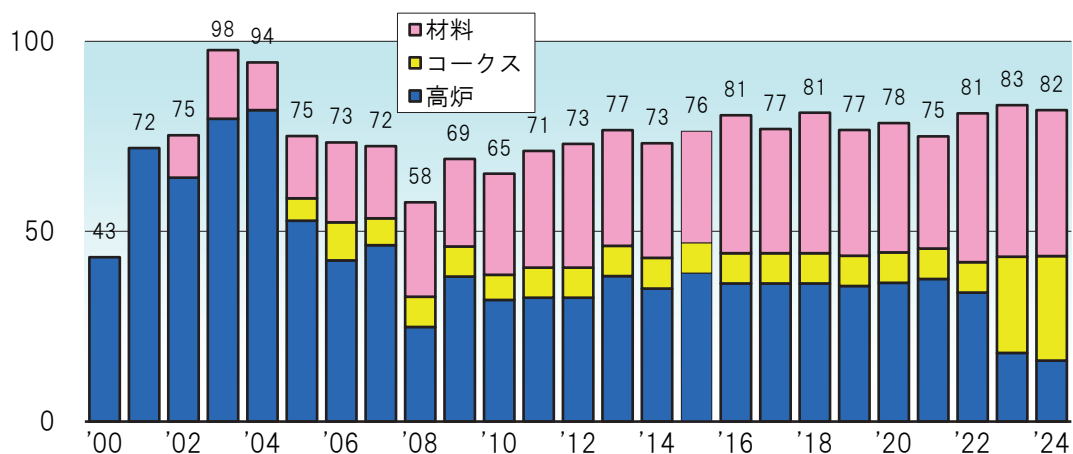
リサイクルの手法

当社は、「容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律（容器包装リサイクル法）」に基づき事業を行っています。一般家庭から排出される容器包装プラスチックのリサイクルには、5つの手法が定められており、当社は 2000 年 4 月の法施行と同時にリサイクルを開始し、現在「高炉還元剤」、「コークス炉化学原料」、「材料リサイクル」の3手法を行っています。

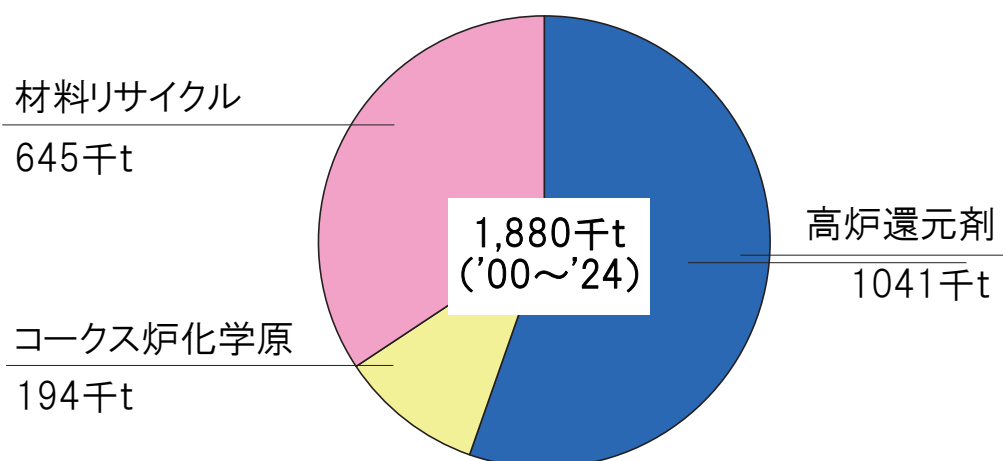
容器包装プラスチックリサイクル量の推移

2000 年度の事業開始以降 2024 年度まで、トータル 1,880 千 t の容器包装プラスチックをリサイクルしてきました。これは、全国総量の約 13%を占めています。

年間リサイクル量



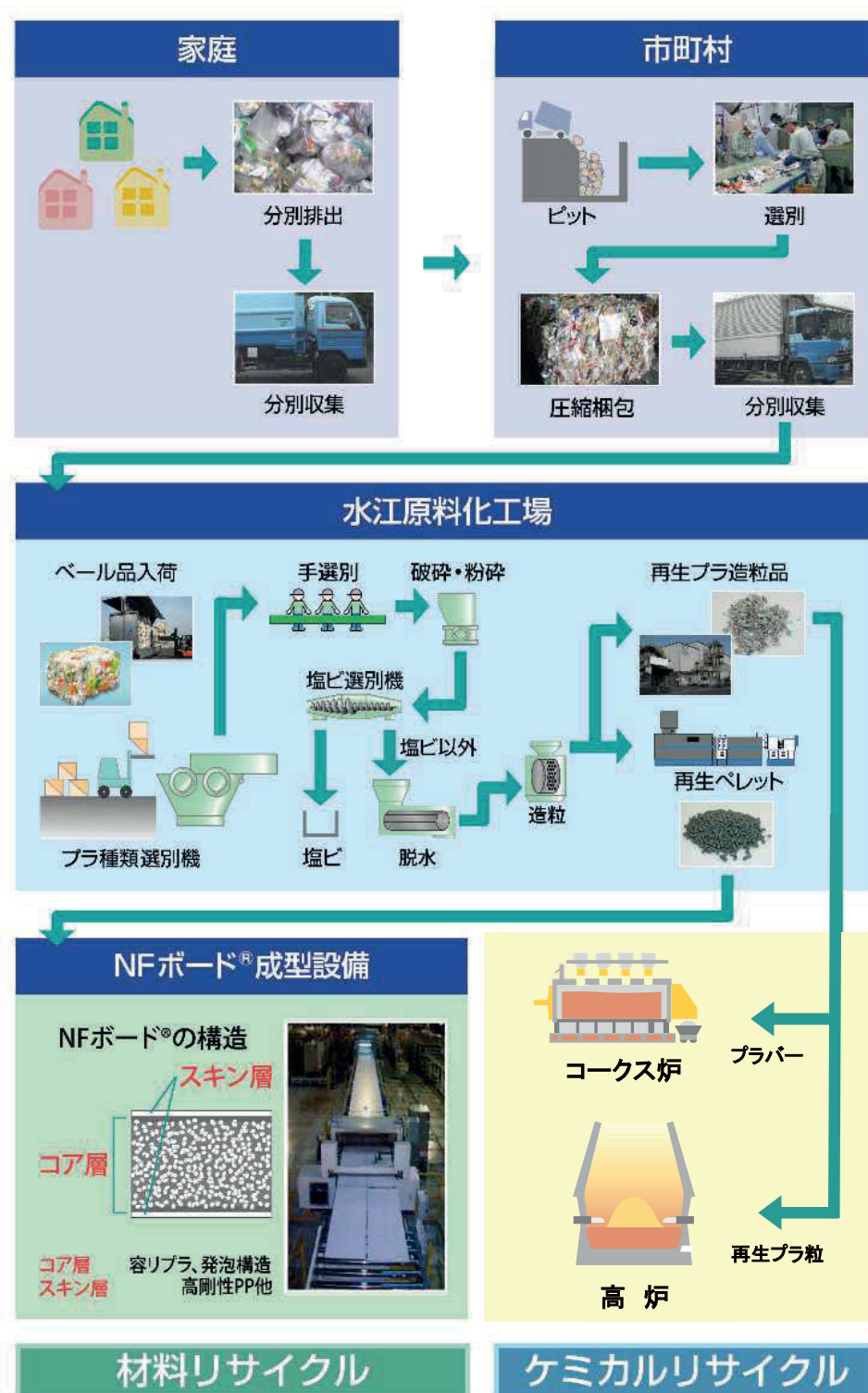
リサイクル量の内訳



環境と調和した製品・サービス

使用済プラスチックリサイクルシステムを通じて

家庭から分別排出され、各自治体で収集された容器包装プラスチックは材料リサイクル（ペレット・NFボード®）やケミカルリサイクル（製鉄所高炉・コークス炉用）として再利用されております。



NFボード®利用用途の拡大

NFボード®の優れた特性を生かしたご利用用途は拡大中です。

NFボード®は白くて明るく腐らない特性に加え、以下のような特長があります。

- 1) 汚れが落ちやすく、加工がしやすい。
- 2) 耐菌繁殖性に優れ、雑菌も落ちやすい。
- 3) 耐水性・撥水性に優れ、高圧洗浄に強い。
- 4) 耐薬品性に優れている。
- 5) 容器包装プラスチックを約70%使用し、地球環境に優しい。

このような多面的な特徴があるNFボード®は年々評価を高めており、特に大手食肉メーカーの畜舎内装材(壁・天井)として、採用実績が増加傾向にあります。

また、これまではNFボードの取り扱い店は限られており、NFボード®の調達が難しいエリアもありましたが、現在では35の都道府県、120ヵ所以上のホームセンターや材木店で調達が可能となっており、サプライチェーンは大幅に強化されています。

畜産





農業



水産



スポーツ



倉庫



壁面緑化

壁面緑化



壁面緑化下地用途



壁面緑化下地用途



壁面緑化下地用途



壁面緑化下地用途

型枠



コンクリート型枠用途



コンクリート型枠用途 (脱型前)



コンクリート型枠用途 (脱型後)

埋設型枠



埋設型枠用途 (切断)



埋設型枠用途 (固定、ビスまわし打ち)



埋設型枠用途 (組立て)



埋設型枠用途 (設置)



埋設型枠用途 (コンクリート打設)



埋設型枠用途 (アンカー設置)



埋設型枠用途 (片持式標識設置)



埋設型枠用途 (サイン標識設置)



地下鉄防水シート下地材用途

看板・その他

選挙



選挙ポスター掲示板用途

イベント



イベント用資材



イベント用資材



イベント用資材



イベント用資材

案内看板



動物園案内看板用途

(雪印こどもの国牧場)



動物園案内看板用途

(雪印こどもの国牧場)



動物園案内看板用途

(雪印こどもの国牧場)



屋外広告看板用途

広告看板

DIY



反射板



まな板



屋外ラック



植木鉢敷板



棚板修繕



農業枠



堆肥枠



農業枠



トラック荷台



家電量販店 什器

NF ボード®の認定・認証

当社独自開発のNF ボード®は、様々な認定・認証を受けています。

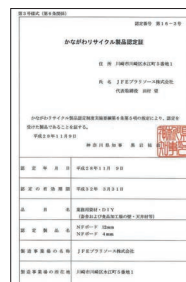
環境にやさしい製品であることに加え、建築資材やD I Y資材として用途の幅広さが評価されています。

1) 海外商標登録

商標 : J F E N F - P L A B O A R D
 所掌 : 中華人民共和国 国家工商行政管理総局 商標局
 登録番号 : 18100179~18100181
 認定日 : 2016 年 9 月 16 日
 所掌 : 中華民国 經濟部 智慧財産局
 登録番号 : 01793824
 認定日 : 2016 年 11 月 28 日

2) かながわりサイクル製品認定

所掌 : 神奈川県
 品目 : 業務用資材・D I Y
 認定製品 : N F ボード
 認定日 : 2016 年 11 月 9 日



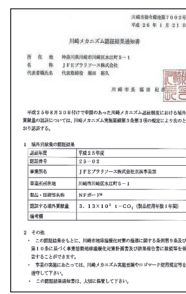
3) 商標登録

所掌 : 特許庁
 商標 : N F エコラベル
 登録番号 : 第5812796号
 登録日 : 2015 年 12 月 11 日



4) 川崎メカニズム認証

所掌 : 川崎市
 製品名称 : N F ボード
 認証番号 : 25-02
 認証日 : 2014 年 1 月 21 日



5) 建設技術審査証明

所掌 : 一般財団法人日本建築センター
 技術名称 : 再生型枠「NFボード」
 認定番号 : BCJ-審査証明-210
 認定期間 : 2013年9月26日~2028年9月25日



6) 商標登録

所掌 : 特許庁
 商標 : NFボード
 登録番号 : 第5481636号
 登録日 : 2012年3月30日



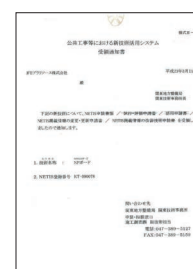
7) エコマーク

所掌 : 公益財団法人日本環境協会
 商品名 : NFボード
 認定番号 : 10 118 027
 認定期間 : 2010年11月25日~2026年5月31日
 類型名 : No.118「プラスチック製品 Ver.2.4」



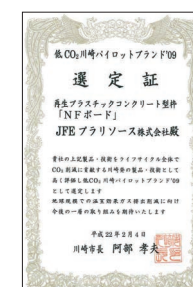
8) NETIS (新技術情報提供システム)

所掌 : 国土交通省
 名称 : NFボード
 登録番号 : KT-090078
 登録日 : 2010年3月26日



9) 低CO2川崎パイロットブランド '09

所掌 : 川崎市
 認定製品 : 再生プラスチックコンクリート型枠「NFボード」
 認定日 : 2010年2月



10) グリーン購入法特定調達物品

所掌 : 環境省
 分類 : コンクリート用型枠
 名称 : NFボード
 適合日 : 2008年3月10日



JFEプラリソースのCSR重要課題

JFEグループのCSR重要課題（マテリアリティ）

JFEグループは、5分野・13項目のCSR重要課題を特定しています。

● 特定したCSR重要課題

特定したJFEグループのCSR重要課題は、以下の5分野・13項目です。
当社グループは、あらゆる事業活動および社会活動において基本となる人権を尊重しながら、公正かつ透明性の高いコーポレートガバナンスを基盤として、これらのCSR重要課題の取り組みを推進していきます。
CSR重要課題への取り組みは、「世界最高の技術をもって社会に貢献します。」という企業理念の実践であり、これらを通じてグループの持続的な成長と持続可能な社会の実現への貢献を目指します。

企業理念 常に世界最高の技術をもって社会に貢献します。

課題の分野		内容	CSR重要課題
事業活動	良質な商品の提供と お客様満足度の向上	<ul style="list-style-type: none">● 優れた技術に基づいた商品とサービスの提供・安全で高品質な商品の安定供給を継続・お客様の課題の解決	商品安定供給
			品質確保
			研究開発の推進
			お客様ニーズへの対応
	地球環境保全	<ul style="list-style-type: none">● 環境負荷低減● 循環型社会の実現に貢献● グループの技術力を活かし環境保全に貢献する商品を開発	環境配慮商品の開発と提供
			地球温暖化防止
			大気環境の保全
			資源循環の推進
	労働安全衛生の確保	<ul style="list-style-type: none">● 安全はすべてに優先する● 社員とその家族のこころとからだの健康の維持と、働きがいのある職場を構築	労働災害の防止
			社員とその家族の健康確保
	多様な人材の 確保と育成	<ul style="list-style-type: none">● 全ての人材がその能力を最大限発揮できる環境を整備● 技術・技能の蓄積と伝承	ダイバーシティ&インクルージョン
			人材育成制度
事業活動の 基本	コンプライアンスの徹底	企業倫理の徹底と法令遵守	

コーポレートガバナンス (公正性・公平性・透明性を確保)

人権の尊重・人権意識

事業活動を通じた「持続可能な開発目標 (SDGs)」への貢献

2015年9月に国連サミットで、持続可能な発展のために世界が共有して取り組む17のゴール「持続可能な開発目標 (SDGs)」が設定されました。グローバル社会の要請に対し、JFEグループは事業活動を通じた貢献を目指します。



関連性の高いSDGs



JFEグループの
持続的な成長と
企業価値の向上

課題への取り組みが
目指すもの

持続可能な
社会の実現に貢献

JFEプラリソースのCSR重要課題

当社は、JFEグループが特定したCSR重要課題を主軸とし、具体的実行テーマを設定しています。17のSDGs目標と、169の対象とするターゲットを照らし合わせ、対象とするターゲットを定め、取り組みを進めています。

JFEグループ 特定したCSR重要課題			当社の主な具体的実行テーマ
事業活動	良質な商品の提供と お客様満足度の向上	商品安定供給	適正なバリューチェーン 小売り店網整備
		品質確保	ISO 9001、ISO 18263 に基づく管理体制
		研究開発の推進	商品開発体制の拡充 研究開発費利益比率2%
		お客様ニーズへの対応	お客様選択仕様の拡大 エンゲージメント強化
	地球環境保全	環境配慮商品の開発と提供	再生プラスチック製品の開発と商品化
		地球温暖化防止	再生プラスチック製品適用市場の拡大
		大気環境の保全	—
		資源循環の推進	副産物の製品化開発
	労働安全衛生 の確保	労働災害の防止	設備・作業の安全化への資本投入 (同一テーマの全工場実行) リスク低減ワースト5活動
		社員とその家族の健康確保	快適職場の形成 家族参加型レクリエーション
	多様な人材の 確保と育成	ダイバーシティ & インクルージョン	外国人の雇用 表示・掲示の多国語化
		人材育成制度	個人別人材育成シートを用いた 社内外教育計画
事業活動 の基本	コンプライアンスの 徹底	企業倫理の徹底と法令遵守	多岐にわたるテーマの内部監査 事例教育

SDGs 目標		対象とするターゲット	
7	エネルギーをみんなに そしてクリーンに	7. 2	再生可能エネルギー割合大幅拡大
9	産業と技術革新の基盤をつくろう	7. 3	エネルギー効率改善率倍増
10	人や国の不平等をなくそう	9. 4	環境配慮技術プロセス導入拡大
11	住み続けられるまちづくりを	—	—
12	つくる責任つかう責任	11. 6	都市部環境影響軽減
13	気候変動に具体的な対策を	12. 1	持続可能な消費と生産プログラム (低炭素型ライフスタイル・社会システム確立)実施
17	パートナーシップで目標を達成しよう	12. 4	製品ライフサイクルでの環境配慮・健康環境悪影響を最小限
		12. 5	予防・削減・リサイクル・再利用で廃棄物排出大幅削減
		12. 6	持続可能性定期報告
		13. 1	気候変動・自然災害弾力性・適応力強化
		—	—
6	安全な水とトイレを世界中に	6. 4	水資源利用効率改善
7	エネルギーをみんなに そしてクリーンに	7. 2	再生可能エネルギー割合大幅拡大
9	産業と技術革新の基盤をつくろう	7. 3	エネルギー効率改善率倍増
12	つくる責任つかう責任	9. 4	資源利用効率向上・クリーン技術・環境配慮技術 プロセス導入拡大
13	気候変動に具体的な対策を	12. 1	持続可能な消費と生産プログラム (低炭素型ライフスタイル・社会システム確立)実施
14	海の豊かさを守ろう	—	—
		14. 1	あらゆる海洋汚染防止・減少
3	全てのの人に健康と福祉を	3. 6	交通事故半減
8	働きがいも 経済成長も	3. a	たばこ規制
		3. d	健康リスク早期警告・緩和・管理能力強化
		8. 4	経済成長と環境悪化の分断（資源効率改善）
4	質の高い教育をみんなに	4. 4	男女の区別無く 雇用・ディーセントワーク(働き甲斐・人間らしい仕事)
5	ジェンダー平等を実現しよう	4. 5	ジェンダー格差を無くす
8	働きがいも 経済成長も	5. 1	女性差別撤廃
9	産業と技術革新の基盤をつくろう	5. 2	女性への暴力排除
10	人や国の不平等をなくそう	5. 3	有害慣行撤廃
		5. 4	無報酬育児・介護・家事認識評価
		5. c	ジェンダー平等促進
		8. 2	高レベル経済生産性
		8. 5	完全かつ生産的雇用・ ディーセントワーク(人間尊厳を保てる生産的な仕事)・ 同一労働同一賃金達成
		—	—
		10. 3	機会均等確保・成果不平等是正
10	人や国の不平等をなくそう	10. 3	機会均等確保・成果不平等是正
16	平和と公正をすべての人に	16. 5	汚職・贈賄大幅減少
		16. 10	基本的自由保障

JFEプラリソース SDGs目標とCSR報告書記載項目対比表

当社の主な具体的実行テーマ	SDGs目標	
適正なバリューチェーン 小売り店網整備	7	エネルギーをみんなにそしてクリーンに
ISO 9001、ISO 18263 に基づく管理体制	9 10 11 12	産業と技術革新の基盤をつくろう 人や国の不平等をなくそう 住み続けられるまちづくりを つくる責任つかう責任
商品開発体制の拡充 研究開発費利益比率2%		
お客様選択仕様の拡大 エンゲージメント強化	13 17	気候変動に具体的な対策を パートナーシップで目標を達成しよう
再生プラスチック製品の開発と商品化	6 7	安全な水とトイレを世界中に エネルギーをみんなにそしてクリーンに
再生プラスチック製品適用市場の拡大	9	産業と技術革新の基盤をつくろう
—	12	つくる責任つかう責任
副産物の製品化開発	13 14	気候変動に具体的な対策を 海の豊かさを守ろう
設備・作業の安全化への資本投入 (同一テーマの全工場実行) リスク低減ワースト5活動	3	全ての人に健康と福祉を
快適職場の形成 家族参加型レクリエーション	8	働きがいも経済成長も
外国人の雇用 表示・掲示の多国語化	4 5	質の高い教育をみんなに ジェンダー平等を実現しよう
個人別人材育成シートを用いた 社内外教育計画	8 9 10	働きがいも経済成長も 産業と技術革新の基盤をつくろう 人や国の不平等をなくそう
多岐にわたるテーマの内部監査 事例教育	10 16	人や国の不平等をなくそう 平和と公正をすべての人に

対象とするターゲット		2025CSR環境報告書項目	頁
7. 2	再生可能エネルギー割合大幅拡大	—	
7. 3	エネルギー効率改善率倍増	—	
9. 4	環境配慮技術プロセス導入拡大	—	
11. 6	都市部環境影響軽減	—	
12. 1	持続可能な消費と生産プログラム (低炭素型ライフスタイル・社会システム確立)実施	品質環境マネジメントシステム	3
12. 4	製品ライフサイクルでの環境配慮・ 健康環境悪影響を最小限	JISQ9091:2016 自己適合宣言	39
12. 5	予防・削減・リサイクル・再利用で廃棄物排出大幅削減	JISQ9091:2016 自己適合宣言	39
12. 6	持続可能性定期報告	環境と調和した製品・サービス	27
13. 1	気候変動・自然災害弾力性・適応力強化	容器包装プラスチックリサイクルのマテリアルフロー	7
	—	環境に係るデータ公開	6
	—	—	
	—	—	
6. 4	水資源利用効率改善	容器包装プラスチックリサイクルのマテリアルフロー	7
7. 2	再生可能エネルギー割合大幅拡大	—	
7. 3	エネルギー効率改善率倍増	—	
9. 4	資源利用効率向上・クリーン技術・環境配慮技術 プロセス導入拡大	品質環境マネジメントシステム	3
12. 1	持続可能な消費と生産プログラム (低炭素型ライフスタイル・社会システム確立)実施	環境と調和した製品・サービス	27
	—	品質環境マネジメントシステム	3
14. 1	あらゆる海洋汚染防止・減少	JISQ9091:2016 自己適合宣言	39
	—	容器包装プラスチックリサイクルのマテリアルフロー	7
3. 6	交通事故半減	—	
3. a	たばこ規制	健康経営への取り組み	19
3. d	健康リスク早期警告・緩和・管理能力強化	健康経営への取り組み	19
8. 4	経済成長と環境悪化の分断（資源効率改善）	容器包装プラスチックリサイクルによる環境負荷削減	6
4. 4	男女の区別無く 雇用・ディーセント・ワーク (働き甲斐・人間らしい仕事)	ハラスメントのない安心できる毎日のために ダイバーシティの推進	17 20
4. 5	ジェンダー格差無くす		
5. 1	女性差別撤廃		
5. 2	女性への暴力排除		
5. 3	有害慣行撤廃		
5. 4	無報酬育児・介護・家事認識評価		
5. c	ジェンダー平等促進		
8. 2	高レベル経済生産性		
8. 5	完全かつ生産的雇用・ ディーセントワーク(人間尊厳を保てる生産的な仕事)・ 同一労働同一賃金達成		
10. 3	機会均等確保・成果不平等是正		
10. 3	機会均等確保・成果不平等是正	ダイバーシティの推進	20
16. 5	汚職・贈賄大幅減少	—	
16. 10	基本的自由保障	ハラスメントのない安心できる毎日のために	17

JIS Q 9091:2016 適合宣言書

持続可能な循環型社会を作り上げていくため限られた資源を有効に使うことが求められる昨今、容器包装リサイクル法の枠組みにおいても、環境負荷低減を目指した環境配慮設計が進んでいます。事業者における容器包装の環境配慮設計の促進と、消費者における環境に配慮した商品の選択につながることを目的として、JIS Q 9091:2016に基づく「適合宣言」を行い、品質マネジメントシステム（ISO 9001:2015）の追加指針としています。

適合宣言書

番号 : 0002

発行者の名称 : JFEプラリソース株式会社

発行者の住所 : 本社・京浜事業部 神奈川県川崎市川崎区水江町5番地1
福山事業部 広島県福山市箕沖町113番地

宣言の対象 : プラスチック製容器包装から材料リサイクル手法にて再商品化したプラスチック再生材料（再商品化製品）

適合規格 : 上記宣言の対象は、次の文書の要求事項に適合しています。
JIS Q 9091:2016
品質マネジメントシステムープラスチック再生材料ー
事業プロセスパフォーマンスに関する指針
平成28年10月20日制定

宣言 :

JFEプラリソース株式会社は、プラスチック製容器包装から材料リサイクル手法にて再商品化したプラスチック再生材料（再商品化製品）について、以下を宣言します。

（１）品質確認

- 1) 出荷する再商品化製品の品質確認を実施します。
- 2) 品質管理基準を定め品質管理を実施し、基準に合格したもののみを製品とします。
- 3) 製品品質の推移を監視します。

（２）品質の安定性

- 1) 製品のサンプルを品質管理基準に基づき保管します。
- 2) 機器の運転状況を適切に監視します。
- 3) 機器の点検・保守を適切に行います。

- 4) 落れた各保管施設からのベール内容（異物、汚れ等）を把握し、再商品化したプラスチック再生材料（再商品化製品）の品質安定化を図ります。
- 5) 規格外品の混入を防ぎます。
- (3) 保管管理
 - 1) 原料及び製品を、保管管理基準に基づき適正に保管します。
 - 2) 原料は、飛散や増湿を防ぐ処置を行います。
 - 3) 原料及び製品の在庫、保管状況を管理します。
- (4) トレーサビリティ管理
 - 1) 原料の受入日、市町村、数量を記録します。
 - 2) 製造におけるマテリアルバランスを管理します。
- (5) 禁止物質管理
 - 1) 特定顧客向けに製品販売を行う場合には、二者間で取り交わした納品仕様書等に規定した要求事項を遵守します。
- (6) 安定供給
 - 1) 安定供給に努めます。
- (7) 測定機器の校正頻度
 - 1) 社内測定器は、管理基準を定め、校正を含めて管理します。
- (8) 再商品化製品製造量当たりの二酸化炭素排出量
 - 1) 再商品化における二酸化炭素排出量を管理します。
- (9) 再商品化製品製造量当たり水消費量
 - 1) 再商品化における水資源使用量を管理します。
- (10) コンプライアンス
 - 1) 公益財団法人日本容器包装リサイクル協会の定めた「プラスチック製容器包装再生処理ガイドライン」を遵守します。
 - 2) 法令に基づき必要な許認可を取得し、適用される法令を遵守します。
 - 3) 情報セキュリティ管理体制を構築しています。
- (11) 保険
 - 1) 建物、設備、その他資産に関する火災保険などに加入しております。
 - 2) 従業員の損害賠償責任保険に加入しております。

代表者 : 堀江 亮介

発行日 : 2017年12月1日（改定日：2024年4月1日）

発行場所 : 神奈川県川崎市川崎区水江町5番地1



JFE プラリソース 株式会社

本社・京浜事業部

〒210-0866 神奈川県川崎市川崎区水江町5番地1

TEL 044-299-5193 FAX 044-299-5328

福山事業部

〒721-0956 広島県福山市箕沖町113番地

TEL 084-981-3160 FAX 084-981-3170

<http://www.jfe-plr.co.jp>



この印刷物は、E3PAのゴールドプラス基準に適合した
地球環境にやさしい印刷方法で作成されています
E3PA：環境保護印刷推進協議会
<http://www.e3pa.com>

